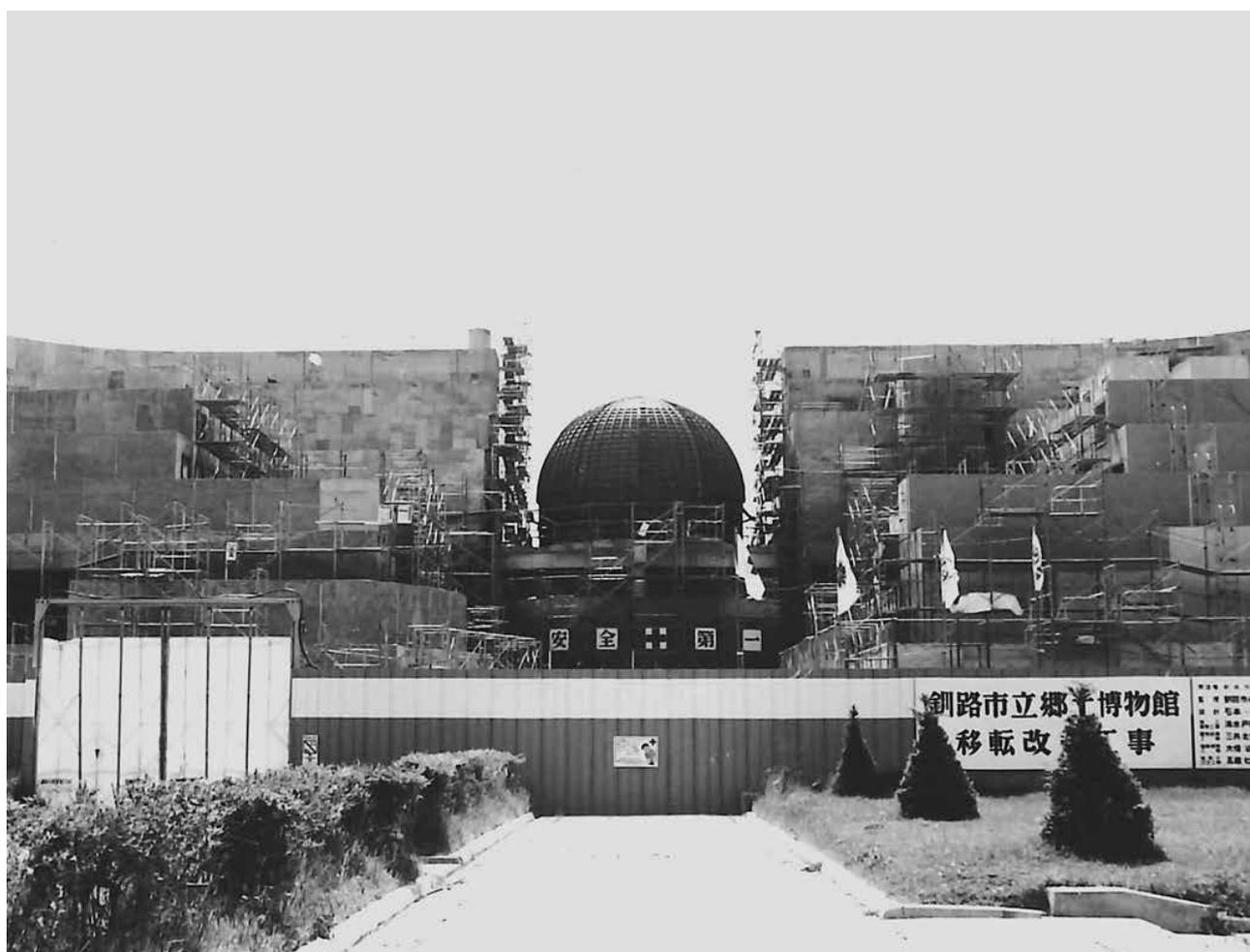


Science Report of Kushiro City Museum

# 釧路市立郷土博物館報

NO.433



2024.3

## 「北の縄文」から身近な文化財へ

2021年7月27日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界遺産に登録されました。ユネスコ世界遺産とは、遺跡や建物、景観、自然など、地球や人類の歴史によって生み出され、人類全体のために、国や文化、思想の違いを乗り越えて私たちが未来の世代に引き継いでいくべき「顕著な普遍的価値」を持つ文化遺産、自然遺産のことです。「北海道・北東北の縄文遺跡群」は函館市垣ノ島遺跡、同大船遺跡、洞爺湖町入江貝塚、同高砂貝塚、伊達市北黄金貝塚、千歳市キウス周堤墓群を含む北海道、青森県、秋田県、岩手県の17遺跡が構成資産となっています。

私が所属している北海道環境生活部縄文世界遺産推進室では、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の保全と活用だけでなく、「北の縄文」をキャッチフレーズに世界遺産登録によって高まった縄文文化への関心を、文化財保護と活用の持続的な好循環へと繋げるための事業を全道で展開しています。世界遺産登録もあり、縄文という道南地域の話題と思われがちですが、北海道全体では約7,500カ所、釧路管内だけでも400カ所もの縄文時代の遺跡があり、これを読んでくださっている方の中にも、ご自宅が、隣の畑が縄文時代の遺跡という方がいらっしゃるかも知れません。

2022年度には、北海道と釧路市立博物館の共催で、「北の縄文展2022in釧路」を開催しました。この展示では、十勝、釧路、根室、オホーツク管内を中心に19自

治体の協力を得て、それぞれの博物館等から常設展の目玉や普段展示されていない縄文時代の土器や石器310点が集結しました。これは過去最大規模となる道東地域の縄文をテーマとした展示で、のべ2,600名以上の方に、道東にも多くの興味深い縄文時代の遺跡があることを知っていただくことができました。

道東・道北地域は、日本列島のドメスティックな文化である縄文文化において独特の雰囲気漂う面白い地域になっています。地理的にはサハリン島と近いものの、サハリン島方面からの影響はほとんど無く、また地理的に遠いため本州からの影響も限定的です。その割には、白滝産や置戸産の黒曜石などは本州でも見つかってますし、東北地方で製作された土器が釧路市で見つかったりもします。

そんな道東・道北地域における縄文時代の遺跡でも、釧路市の東釧路貝塚や幣舞遺跡、緑ヶ岡遺跡などは全国的にも著名で、それら調査成果は北海道のみならず縄文文化研究全体に大きな影響を与えました。特に、地球規模の温暖化・寒冷化や釧路湿原の形成といった環境の変化と、それに応じた縄文時代の人々の生活の変化は、現代に生きる私たちにも示唆に富むものです。ぜひ、「北の縄文」に関心を持っていただくとともに、地域の文化財、地域の成り立ちにも目を向けていただければと思います。

村本 周三(北海道環境生活部縄文世界遺産推進室)

## 3月号目次

釧路湿原南部地域におけるオオジシギの生息状況について……………黒澤信道・貞國利夫	3
2022年から23年にかけて春採湖周辺で確認したカラスの異常死一デジカメ画像記録からの検証 ……………樋田宏三郎・黒澤信道	6
追悼 滝田謙譲さん……………神田房行・高嶋八千代・高橋英樹・加藤ゆき恵	8
田川市石炭・歴史博物館と友好館協定を締結……………石川孝織	10
北の縄文、釧路の縄文。……………澤田恭平	11
博物館ニュース……………	12

〈表紙写真〉 昨年11月で新館(現在の博物館)開館40周年を迎えました。写真は新館建設工事のひとつコマ。中央はタンチョウが舞う4階展示室のドームです。今では外観に隠れてわかりませんが、ドームの形が見られる貴重なショットです。(戸田 恭司)

釧路市立博物館館報 No.433 2024年3月号 2024年(令和6年)3月31日発行

発行 釧路市立博物館 〒085-0822 釧路市春湖台1-7

☎ 0154-41-5809

釧路市立博物館Web <https://www.city.kushiro.lg.jp/museum/museum@city.kushiro.lg.jp>

発行責任者 松本 敦 編集 貞國 利夫 印刷 (株)藤プリント